

ピュア新聞



2026年

2月号

児童部門 (ピュアサポート教室)

今年最初のイベントは、みんなが楽しみにしていた「ひらかたパーク」への遠足でした！
出発前には、スケジュールや電車でのマナーを確認し出発！



電車の中では、しおりを見ながら「次は〇〇駅だね！」と盛り上がりました☆
自分たちの力で目的地に向かうワクワク感が伝わってきました♪



到着後、お昼ごはんを食べてパワーをチャージしたら、班ごとの作戦会議がスタート！

「次はあれに乗ろう！」と相談しながら、ジェットコースターやコーヒーカップなど、たくさんのアトラクションを楽しみました。

心もお腹もいっぱい、最高の1日になりました☆



生活介護ピュアファクトリー

昨年12月にピュアからコンサルテーション(2年以上継続的に)にお伺いしている4事業所スバル・トータルプランニング株式会社さん・社会福祉法人ぬくもりさん・一般社団法人eightさん・NPO法人ピュアが集まって、合同での若手実践報告会を東大阪のピュア本部で行いました！

ピュアからは生活介護ピュアファクトリーの支援員が日々の実践報告をさせていただきました。実践報告の準備をしていると、今までの支援の経過を改めて振り返りかえることができました。その後は、懇親会も開催され、4事業所のスタッフ同士が交流する機会をいただきました。

外部の施設での取り組みの発表を聞かせていただき、たくさん学ばせていただくことや、自分たちの支援を振り返る機会になりました。

皆様と共に、今後もこのような機会を継続していければと思います！事業所の皆様有り難うございました！写真はスバル・トータルプランニング株式会社さんからのご提供です。ご提供ありがとうございました！



就労継続支援B型アドバンス



2月の東大阪の畑の様子です。畑では寒いにも関わらず梅の花が咲きだしました。少しずつ春が近づいてきているのかもしれないね♪

玉ねぎやうすいえんどう、そら豆なども寒さや風にも負けず、がんばって育っています。人間もこの健気さや、たくましさを見習いたいものですね！

この時期は、玉ねぎの周りに生える草抜きや、草マルチ用の枯草を細かくカットする作業。そして、夏に収穫したオクラのタネをとったり、春に向けて育苗用のポットの準備を始めています。ビニールハウスの中は、真冬でもほんのり暖かいので、そら豆も2~3倍の大きさに育っています。肥料も農薬も使わない自然栽培のため、野菜たちはゆっくりゆっくり育っています。

そしていわゆる雑草と言われる“草”たちの勢いも穏やかなので畑ではゆったりとした時間が流れています♪暖かい春、そして収穫の時を心待ちにしつつ少しのんびりTimeを満喫している今日このごろです！



『そら豆』

生活介護あすかファクトリー

あすかファクトリーでは、利用者さんと一緒に、農作業に取り組んでいます。

現在、豊かな土壌を作るための重要な工程として「土踏み」による土作りが進行中です。

でもただ踏むだけじゃ面白くないよね、とスタッフからアイデアを募集したところ、ボールやバドミントン、凧揚げをしたらいいんじゃない？ということで、レクリエーションも兼ねて土踏みをしました！

利用者さんもスタッフも、本気でレクリエーション、いえいえ土踏み頑張りました。



行動援護ピュアアクティブ

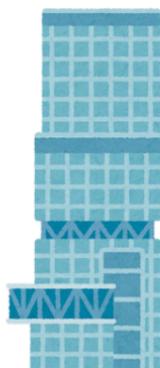
Hさんは大阪のシンボル、あべのハルカスの展望台へ行ってきました！見渡す限りの絶景に、思わず時間を忘れてぼーっと見入ってしまいます。お天気も最高で、青空がとっても綺麗でした！

スタッフとはホワイトボードを使って筆談で楽しくレッツコミュニケーション♪

素敵なりフレッシュタイムになりました！

Hさんは高層からの景色を見ることがお好きなようで、お次は、神戸ポートタワーを選ばれています♪

ご本人の自己実現をどんどん応援していきたいと思っております☆



理事長コラム



中河内地域（東大阪市・八尾市）では、産官学が連携し、より良い地域づくりを目指す取り組みが5年前よりスタートしています。毎年「中河内シンポジウム」と題した成果発表会が開催されており、今年も2月23日に八尾市生涯学習センター「かがやき」にて行われました。

当日は東大阪市長・八尾市長をはじめ、企業関係者や一般市民など約200名が参加し、会場は大きな熱気に包まれました。パネルディスカッションでは、「これからの地域に何が必要か」「私たちはどのように行動していくべきか」といったテーマについて、市長・企業・市民それぞれの立場から本音の意見が交わされ、活発な議論が展開されました。

また、本シンポジウムでは、食に関わる同友会企業（NPO法人ビュア、株式会社マルキチ、株式会社ナコム、イタリアンカフェ ミスティーク）と、東大阪市永和にある樟蔭女子大学が連携して進めてきた「誰もが安心して暮らせる社会を実現する農業6次化プロジェクト」の発表も行われました。このプロジェクトは、障がい者が育てた野菜を加工し、価値ある商品として販売していくことで適切な利益を生み出し、障がい者の自立した生活の実現を目指すことを目的にスタートしたものです。産学が連携し、それぞれの強みを活かしながら取り組みを進めてきました。

発表では、プロジェクトに参加した樟蔭女子大学の学生の皆さんが、自身の学びや気づきを発信しました。来場者からは「視点が新鮮で素晴らしい」「非常に感動した」といった声が多く寄せられました。学生の皆さんからは、以下のような学びや成長の実感が報告されました。

- ・熱意ある企業の方々と活動する中で、大人の行動力や熱量を肌で感じ、自分もそのような存在になりたいと考えるようになった。
- ・自らの活動を言語化して伝える難しさを感じながらも、経験を重ねる中で表現力が向上し、成長を実感できた。
- ・障がいのある方やそのご家族、支援に関わる方々から直接話を聞き、現場の実情への理解が深まった。
- ・活動を通じて新たな出会いが生まれ、多くの学びや気づきを得ることができた。
- ・他大学の学生の取り組みに触れ、同世代の行動力や熱意に大きな刺激を受けた。
- ・相手に伝わる説明の仕方や順序の重要性を実感した。
- ・障がい者に対する固定観念を変え、可能性を発信していくことの大切さを学んだ。
- ・それぞれの強みを掛け合わせることで、単独では実現できない成果が生まれることを実感した。
- ・「誰もが安心して暮らせる社会」を実現するためには、多様な人や企業の連携が不可欠であると再認識した。
- ・多くの人に活動を伝え、関心を持ってもらうことが社会の実現につながると感じた。
- ・企業や大学の連携により、新たな発想が生まれ、マルシェや万博出展、商品開発へと広がった。

今回の発表を通じて、産官学の連携がもたらす可能性と、その中で生まれる人材の成長の大きさを改めて実感する機会となりました。今後も本取り組みを通じて、地域のさらなる発展と「誰もが安心して暮らせる社会」の実現を目指していきたいと思っております。



【次号をお楽しみに！】